

平成22年度兵庫県公立高等学校入学者選抜における複数志願選抜及び特色選抜の
検証結果について(概要)

1. 検証の対象学区(平成22年度複数志願選抜及び特色選抜の実施学区)

神戸第三(H15)、姫路・福崎(H17)、加印(H18)、北播(H19)、尼崎(H20)、明石(H20)、
西宮(H21)、伊丹(H21)、神戸第一・芦屋(H22)、神戸第二(H22)、宝塚(H22) ()は導入年度

2. 検証方法

- (1) 志願状況・合格状況等のデータの分析
- (2) 新入生、保護者、中学校及び高等学校へアンケートの分析

3. 検証結果の概要

(1) 志願状況・合格状況等のデータの分析

(ア) 第1志望校に合格した割合 11学区中8学区で90%を超えている(全学区平均は約92%)

学区名	神戸第三	姫路・福崎	加印	北播	尼崎	明石	西宮	伊丹	神戸第一・芦屋	神戸第二	宝塚	全学区平均
第1志望校に合格した割合	95.6%	88.4%	93.1%	94.8%	90.6%	92.6%	84.0%	92.9%	94.1%	95.2%	83.4%	91.6%
第2志望校に合格した割合	4.4%	11.3%	5.7%	5.2%	8.1%	5.9%	11.2%	5.3%	5.7%	3.6%	14.3%	7.2%
その他校に合格した割合	0.0%	0.3%	1.1%	0.0%	1.3%	1.5%	4.8%	1.8%	0.2%	1.2%	2.3%	1.2%

(イ) 第2志望校・その他校への入学を希望する割合 総合選抜から移行した学区の方が多い

元の選抜制度	総合選抜					単独選抜					
	学区名	尼崎	明石	西宮	伊丹	宝塚	神戸第三	姫路・福崎	加印	北播	神戸第一・芦屋
第2志望校を記入する割合	92.5%	96.8%	86.6%	89.3%	92.7%	74.2%	70.9%	82.4%	67.2%	43.9%	45.1%
その他校希望ありの割合	76.8%	88.9%	55.6%	54.1%	76.6%	30.8%	2.1%	22.5%	7.2%	2.7%	10.3%

(ウ) 第2志望校を記入する割合 単独選抜から移行した学区では増加している

学区名	神戸第三	姫路・福崎	加印	北播
導入年度の割合	63.5%	62.7%	71.5%	63.0%
H22年度の割合	74.2%	70.9%	82.4%	67.2%
増加率	10.7%	8.2%	10.9%	4.2%

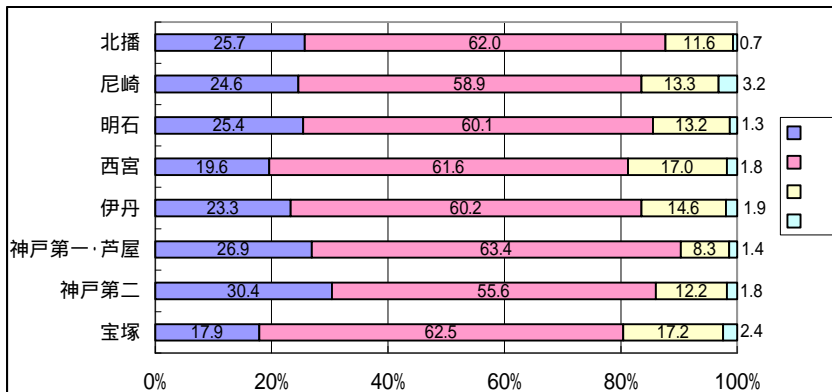
(2) 新入生、保護者、中学校及び高等学校へのアンケートの分析

(ア) 高校生活の充実度 約80~88%の新入生が「充実している」と回答

(問) 現在充実した高校生活を送っていますか。【高校新入生回答】

大変充実している 充実している あまり充実していない 全く充実していない

(結果)

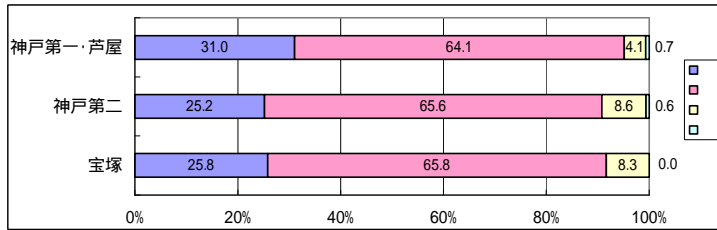


(イ) 複数志願選抜の理解度 新たに導入した3学区では90%以上の保護者が「理解していた」と回答

(問) 複数志願選抜の内容について理解していましたか。【高校新入生保護者回答】

よく理解していた だいたい理解していた あまり理解していなかった 全く理解していなかった

(結果)

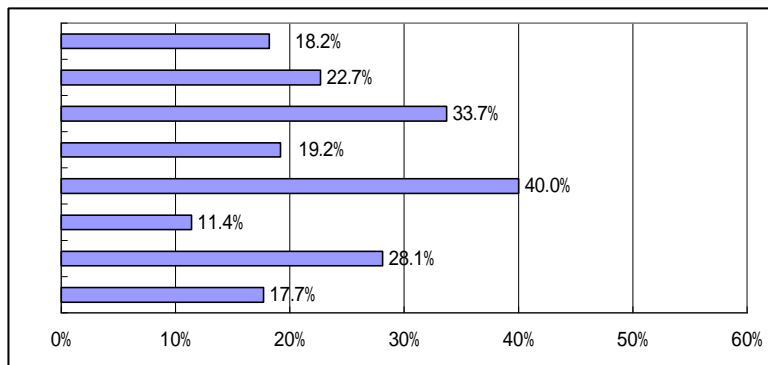


(ウ) 複数志願選抜における第1志望校の決め手 目的意識をもった学校選択が行われている

(問) 第1志望校の決め手となった理由は何ですか。(複数回答可)【高校新入生回答】

特色ある学習内容 学校行事・特別活動 大学等への進学や就職の状況
部活動 校風・学校の雰囲気 兄弟・親戚が通学している(していた)
通学時間 その他

(結果)

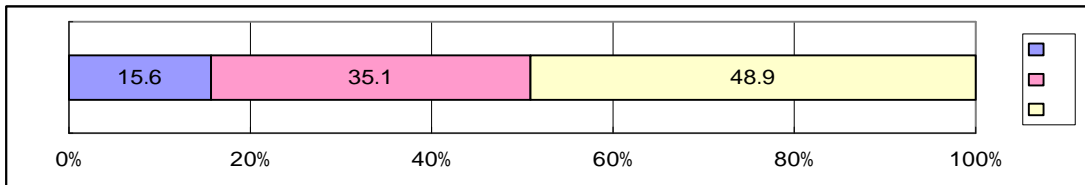


(エ) 特色選抜で入学した生徒 学校生活に積極的で学校の活性化に貢献

(問) 特色選抜で入学した生徒について、複数志願選抜で入学した生徒と比較して学習や学校生活の取り組みに違いはありますか。【高等学校長回答】

違いがある やや違いがある 変わらない

(結果)



、と記入したほとんどの学校で、具体的コメントでは学習や学校生活に積極的と回答している。

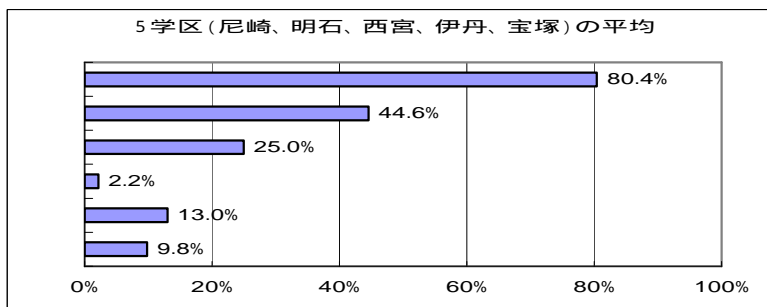
(オ) 総合選抜から移行した5学区 中学校の進路指導や生徒・保護者の意識が変化

(問) 複数志願選抜及び特色選抜の導入以前と比べて、生徒の進路指導にどのような変化がありましたか。

(2つまで選択可) 【中学校長回答】

高校の特色を踏まえた進路指導をするようになった 主に学習成績によって進路指導をするようになった
生徒に進路を考えさせるキャリア教育を充実させた 学習塾等の情報も参考にようになった
総合選抜時とあまり変わらない その他

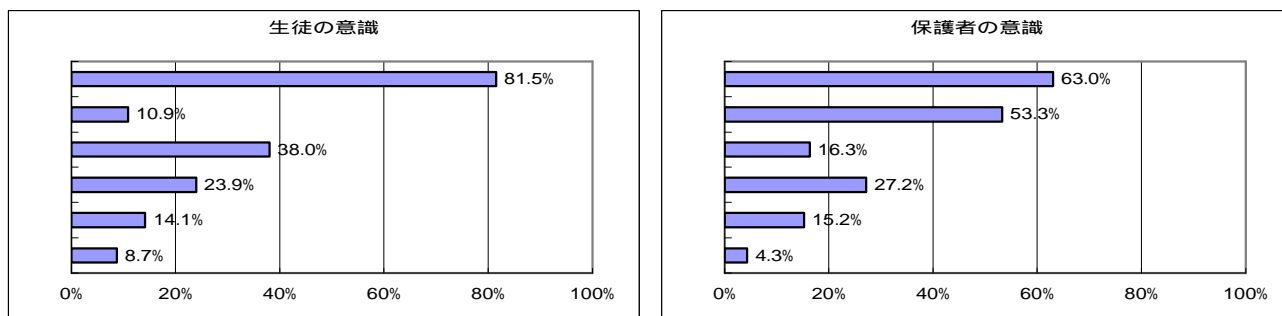
(結果)



(問) 複数志願選抜及び特色選抜の導入以前と比べて、生徒(保護者)の進路に対する意識の変化はありましたか。(2つまで選択可) 【中学校長回答】

- 高校の特色について関心を持つようになった
- 授業への取り組みが熱心になった(子どもの学習成績について学校によく相談するようになった)
- 自分の(子どもの)将来や生き方を考えた上で進路選択をするようになった
- 学習塾等の情報に関心をもつようになった
- 総合選抜時とあまり変わらない
- その他

(結果) 5学区(尼崎・明石・西宮・伊丹・宝塚)の合計



(3) 今後の課題

平成15年度から複数志願選抜と特色選抜を順次導入し、平成22年度には16学区中11学区で実施する状況になったことから、高等学校及び中学校へのアンケートの中で、改善すべき事項について自由記述を求めたところ、主に次のような意見が出された。

複数志願選抜の志願方法について

- ・ その他校については、入学後の指導が難しいなどの課題があり、制度の見直しが必要である。
- ・ 複数志願選抜実施校間での志願変更を認めてほしい。

複数志願選抜の実施対象校について

- ・ 学校数が少なければ、複数志願選抜の趣旨が生かされない。学区統合も含めて実施対象校を増やす努力をしてほしい。
- ・ 単位制高校や総合学科、専門学科も複数志願選抜の実施対象校に含めてほしい。

複数志願選抜の第1志望加算点について

- ・ 学区ごとに点数が異なる現在の第1志望加算点が妥当かどうかの検証が必要である。
- ・ 単独選抜実施校から複数志願選抜実施校に志願変更しても、第1志望加算点が適用されるようにしてほしい。

特色選抜について

- ・ 中学校での基礎的な学力をみるために面接・作文だけでなく適性検査の実施も検討すべきである。
- ・ 特色選抜の内容、入学後の教育課程等の中学校への十分な情報提供が必要である。

その他

- ・ 全日制における定員割れの学校の再募集を検討してほしい。

また、保護者へのアンケートにおける自由意見では、生徒が学びたい学校をチャレンジできることなど制度を評価する意見が多く出された一方で、次のような課題となる意見も出された。

- ・ 各学校の特色がよくわからない学校もあった。もっとPRしてほしい。
- ・ 学校数が少ない学区では、選択肢が少なく第2志望校が書けない。
- ・ 高校間の格差が広がるのが心配である。